

研 報 94-030

平成6年 8月23日

大成化学株式会社

取締役営業部長 海沼 幸生 様

ラットバスターのクマネズミに対する忌避効力試験報告書

イカ
技
所



会 社



ラットバスターのクマネズミに対する忌避効力試験報告書

報告者 イカリ消毒(株)技術研究所

清水 隆行

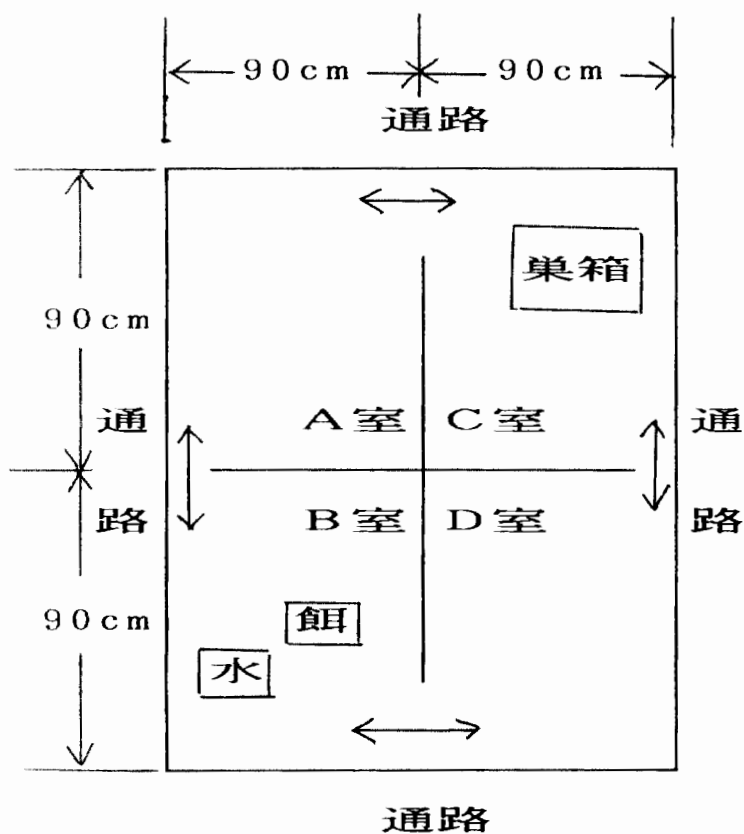
試験期間：平成6年7月25日～平成6年8月20日

試験場所：弊社 技術研究所 試験室（20～27℃に空調され、照明は6時から18時まで点灯、18時から6時まで消灯されている。）

供試材料：御社ご提供の「ラットバスター」及びその原液

供試動物：クマネズミ *Rattus rattus*

試験方法：図のように透明なプラスチック板で作った180cm×180cmの部屋を90cm×



試験装置略図（平面図）

90cmの4個の小室に区切り、ネズミが隣あう小室を自由に行き来できるように小室の区切りの壁の隅には通路を開けた。

対角に位置する二つの小室にはC室に巣箱、B室には餌と水を置いた。

この部屋へ、ネズミを5頭放し、数日間飼育し、ネズミを試験環境に馴らした。

その後、D室には供試品を塗布し、数時間風乾したベニヤ板（塗布量：14ml/m²、以下 処理板という）を敷きつめ、A室には何も塗布しないベニヤ板（以下 無処理板という）を敷きつめた。

その状態で、1夜（0：00～6：00）のネズミの行動を赤外線ビデオカメラで撮影し、巣箱のあるC室と餌・水のあるB室を行き来する際にA室あるいはD室のどちらを使用しているか、各部屋の延べ侵入個体数を数えた。

次に、A室に処理板を敷き、D室に無処

理板を敷き、同様にネズミの行動を観察した。

以上のように処理板を敷く小室を入れ換えて実験を10回繰り返した。

：各夜のA室及びD室の侵入個体数を表－1に示した。

表－1

	処理板を	延べ侵入個体数	
	敷いた室	A室	D室
第1夜	D	215	178
第2夜	A	101	428
第3夜	D	111	109
第4夜	A	58	189
第5夜	D	61	55
第6夜	A	63	224
第7夜	D	93	88
第8夜	A	39	204
第9夜	D	131	115
第10夜	A	40	192
総侵入数		912	1,782

次に原液を用いて一夜だけ行なった結果を表－2に示した。

表－2

処理板を	延べ侵入個体数	
敷いた室	A室	D室
D	154	52

考察：上表の結果より、処理板を置いた小室への出入りの方が少ないといえるが、ややD室への侵入に偏っているように思われる。

試験期間の都合上、両室に無処理板を敷く設定での観察を行なわなかったもので明らかではないが、何らかの原因により、試験装置に片寄りがあり、D室の方がネズミに好まれている可能性が考えられる。

そこで、各試験日ごとに両室の延べ侵入数の比（A室侵入数／D室侵入数）を求め、これを用いて処理板を敷いた室の違いによる両室への侵入比率の変化を検討してみる。

各試験日の侵入数比を表－3に示した。

表－3

	処理板を 敷いた室	侵入数比 A室・D室
第1夜	D	1. 2 0 7
第2夜	A	0. 2 3 6
第3夜	D	1. 1 8 3
第4夜	A	0. 3 0 7
第5夜	D	1. 1 0 9
第6夜	A	0. 2 8 1
第7夜	D	1. 0 5 7
第8夜	A	0. 1 9 1
第9夜	D	1. 1 3 9
第10夜	A	0. 2 0 8

結論：何らかの理由によりD室への侵入を好む傾向が見られるが、A室での侵入数の比率と経緯を検討すると、明らかに処理板の有無による相違が見られる。

従って、供試品はクマネズミの忌避に効果があると思われる。